

途上国アルバム：コロンビア

井上侑一郎
世界銀行グループ国際金融公社
Senior Investment Officer

世界銀行グループ・国際金融公社（IFC）ボゴタ事務所で、インフラ投融資に取り組んでいる井上侑一郎です。コロンビアと言えば、日本人にとって麻薬カルテルや誘拐事件といったネガティブなイメージが強いかもしれませんが、でも実際はどうなのでしょう？今日はそんなコロンビアとボゴタの生活の魅力的な側面をお届けします！

まず治安についてお話ししましょう。コロンビアは80年代から90年代にかけて、麻薬カルテルや左翼ゲリラとの内戦に苦しみ、結果として世界中に「危険な国」という残念な印象を広めてしまいました。しかし2002年にウリベ大統領が就任して以来、治安対策と和平プロセスが進展し、劇的に状況が改善しました。もちろん、日本と比べればまだ犯罪は多いですが、頻繁な誘拐やテロのイメージは過去のものとなりつつあります。私自身、普段から街を徒歩で歩き回り、ボゴタの美しい街並みや新鮮な高原な空気を楽しんでいます。



(写真1) コロンビアの街角



(写真2) 鮮やかなボゴタの空と街

次に気候について。コロンビアが赤道近くに位置するため、暑くて一年中天気が良いと思われがちです。しかし実際には、アンデス山脈が国土の大部分を占めるため、高地の都市、例えばボゴタやメデジンでは全く違った気候となります。特に首都ボゴタは標高 2,600 メートルという高さで、年間の最高気温は 20°C 前後、朝夕は 10°C 以下になることも。「常秋の街」とも呼ばれています。

そして、ボゴタの天気は一言で言えば「雨、雨、雨!」。ボゴタは世界でも降雨日数が多い首都の一つであり、Micro Climate (局所気候) と呼ばれるその気候は驚くほど変わりやすいです。同じエリアでも数キロごとに、また同じ一日でも数時間ごとに全く異なる天候になります。さっきまで晴れていたのに急に土砂降りになったり、家の周りは晴れているのにオフィス付近は土砂降りだったり、外出には折りたたみ傘と防水スニーカーが欠かせません。



(写真3) ボゴタは今日も雨



(写真4) ボゴタっ子は
雨もへっちゃら!



(写真5) 犬もレインコート

そうしたボゴタの変わりやすい天候は、雲の写真を見るとよくわかります。写真 6 は、ボゴタに大雨を降らせる積乱雲の大群を写したものです。撮影時点では綺麗に晴れていましたが、写真の積乱雲は肉眼でもはっきりわかるスピードで急速に流れて合体して巨大な一つの積乱雲となり、数時間後には土砂降りになっていました。写真 7 は Micro Climate の瞬間を捉えたもので、向かって右側では猛烈な嵐が吹き荒れる一方、左側はカラッと晴れて一滴も雨が降っていません。



(写真 6) 積乱雲の大群



(写真 7) 左は晴れ、右は大嵐

この変わりやすい天候は、ボゴタの豊かな自然を育んでいます。街を一步出ると、美しい森林が広がり絶好のハイキングスポットとなっています。引越したばかりの頃、現地の同僚に「夜間に郊外を車で走るのは大丈夫？」と相談したところ、「夜に郊外を走るとジャガーに襲われるリスクがあるよ。強盗より怖いね。」と言われました。なるほど、野獣の方が強盗より恐ろしいですね。町を一步出ると、そこは手つかずの大森林と野生動物の宝庫。こうした自然環境でろ過されたおいしい湧き水を飲料水に使っているおかげで、ボゴタの水道の水は非常に美味しいと言われています。ボゴタっ子の自慢のタネであり、中南米でも数少ない煮沸や消毒なしで水道水が飲める街です。



(写真8) 森のトンネル



(写真9) 夜はジャガーが出る (?) ボゴタの森

しかし、2024 年はボゴタにとって試練の年でした。世界的な気候変動とエルニーニョ現象が重なり、大旱魃に見舞われました。週に数回の断水が一年近く続き、水を失った水力発電所も発電を止めたため、国中で大停電の一手前まで行きました。またボゴタでは大規模な山火事も発生し、山際の住民は避難を余儀なくされました。旱魃とはいえ、週に一度くらいのペースで雨は降っていたため、水不足という感覚は外国人の私には不思議でした。しかし、毎日降り続く雨を前提としてインフラを整備し、豊富な水資源を贅沢に活用してきたボゴタにとって、この状況は深刻な問題です。私が働く IFC では、水の利用を効率化して次の渇水を防ぐために、ボゴタ市水道公社との間で水資源の有効活用に向けた技術協力協定を締結し、水資源管理戦略の策定に取り組んでいます。

コロンビアの挑戦は水道インフラだけにとどまりません。壮麗なアンデス山脈に抱かれたこの国のもう一つの大きな課題は交通インフラです。険しい山岳地帯が道路整備を困難にしているうえに、90 年代の治安悪化で幹線道路はゲリラや麻薬組織の誘拐の現場となり、モータリゼーションが他国ほど進まず、道路網の整備はややもすれば後回しとなっていました。しかし、2000 年代に治安が改善されると、車の数が劇的に増加し、ボゴタなどの大都市の道路網は慢性的な交通渋滞に陥りました。こうした課題に対し、IFC を始めとする世界銀行グループでは、民間資本を活用した道路整備をすべく、大規模な官民連携プログラムを支援しています。この取り組みによって、各都市をつなぐ道路網の再建と拡張が進められています。そんな雨と渋滞に悩まされるボゴタですが、ボゴタっ子たちはその逆境を見事に楽しむ天才です。コロンビアは世界有数のサイクリング大国であり、「車が動か

ないなら自転車に乗ればいいじゃないか！」とばかりに、街中が自転車で溢れています。雨も彼らにとってはただの水分補給。週末ともなると、何千台もの自転車が街を駆け巡ります。



(写真10) ボゴタの渋滞



(写真11) 雨の日もお構いなし



(写真12) 息子とサイクリング

さらに、コロンビアはアウトドア愛好家の楽園とも呼ばれています。多くの人々がキャンピング、ロッククライミング、ラフティング、ハイキングなどの冒険に繰り出し、自然を満喫します。また、牧畜が盛んなお国柄で、週末ともなるとそこかしこで **Asado** と呼ばれるバーベキューが始まり、町中に炭と薪の焼けるにおいが充満します。私たち家族もボゴタに着任してから約2年が経ち、最初は雨や渋滞に悩まされましたが、今ではすっかり慣れてしまい、この都市の真の魅力を存分に楽しめるようになりました。ボゴタの逞しさと活気に満ちた日常は、私たちに新たな視点と活力を与えてくれるのです。



(写真 13) コロンビアに来て覚えた Asado



(写真 14) 初めてのキャンプ



(写真 15) 同僚とハイキング